

今金町

清水 かおり

1.概要と歴史

1.1 概要

いまかねちょう
今金町は北海道南西部、渡島半島の北部にある檜山支庁北部に位置する。周囲は狩場山系・ユーラップ岳に囲まれた内陸地で、清流日本一に輝いた後志利別川が流れ、肥沃な大地が道南地方一の農業地帯を形成し、様々な四季の移り変わりを楽しむことのできる町である。

図 1 町章



出典：今金町 HP

町章の由来：昭和 42 年、70 周年を記念して一般募集により制定。
蛇行する川と農耕の「ノ」を組み合わせず。

（昭和 42 年 10 月 1 日制定）

図 2 町の木：イチイ



出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

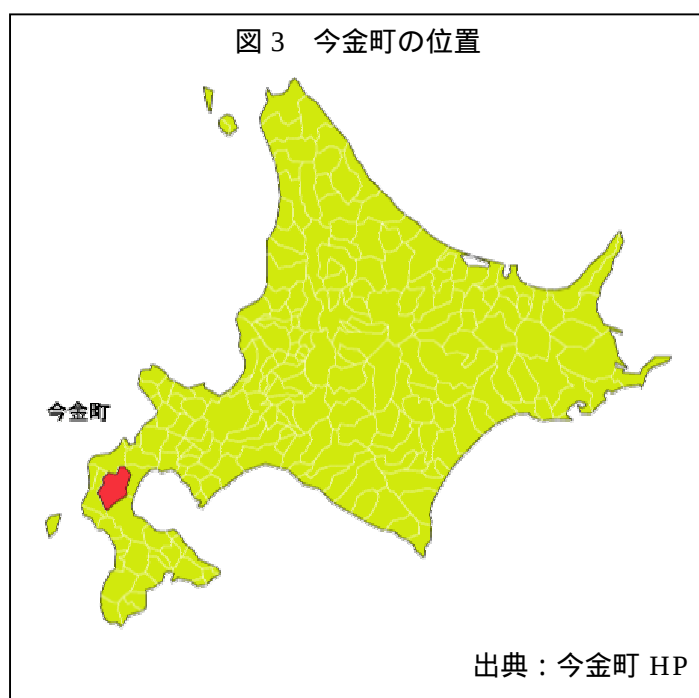
1.2 地名の由来

今金町の地名の由来は、昭和 22 年 10 月 1 日の町制施行を機会に、明治 26 年に入植した今村藤次郎、金森石郎らの姓の冠字をとり「利別村」から「今金町」と改称したことが由来とされている。この二人は今日の今金の基礎をつくった開拓の先駆者であった。

1.3 歴史

今金の草創は寛永年間（1600 年代前半）頃、後志利別川上流（美利河、花石地区）においての砂金採取が始まりとされている。1877 年には福井県若狭の人々により花石地区でメノウが発見され、大島勘左工門によりメノウ採取事業が始められる。また、マンガン・金・銀などの鉱物資源も発見され、人々の往来が盛んになっていった。明治中頃には後志利別川流域の各地区に開拓者が入植し、1891 年には神丘（インマヌエル）に志方之善、荻野吟子らが、1893 年に今村藤次郎、金森石郎ら 15 戸がそれぞれ今金に入植した。今村、金森の二人は 1896 年に市街地の設置を計画。宅地を 129 区画に割り、役場、警察の予定地を設けるなど、今日の今金の基礎を作った。明治 30 年瀬棚町から分村し、今金町の前身である利別村となり、1947 年に施行された町制をきっかけに今金町へ改称。その後の 2004 年 4 月 21 日に、熊石町、（旧）八雲町とともに法定協議会を設置し合併のための協議が行われていたが、今金町は 7 月 5 日に協議会から脱退、単独で存続することとなり、現在の今金町に至る。

2. 今金町の地理・気候

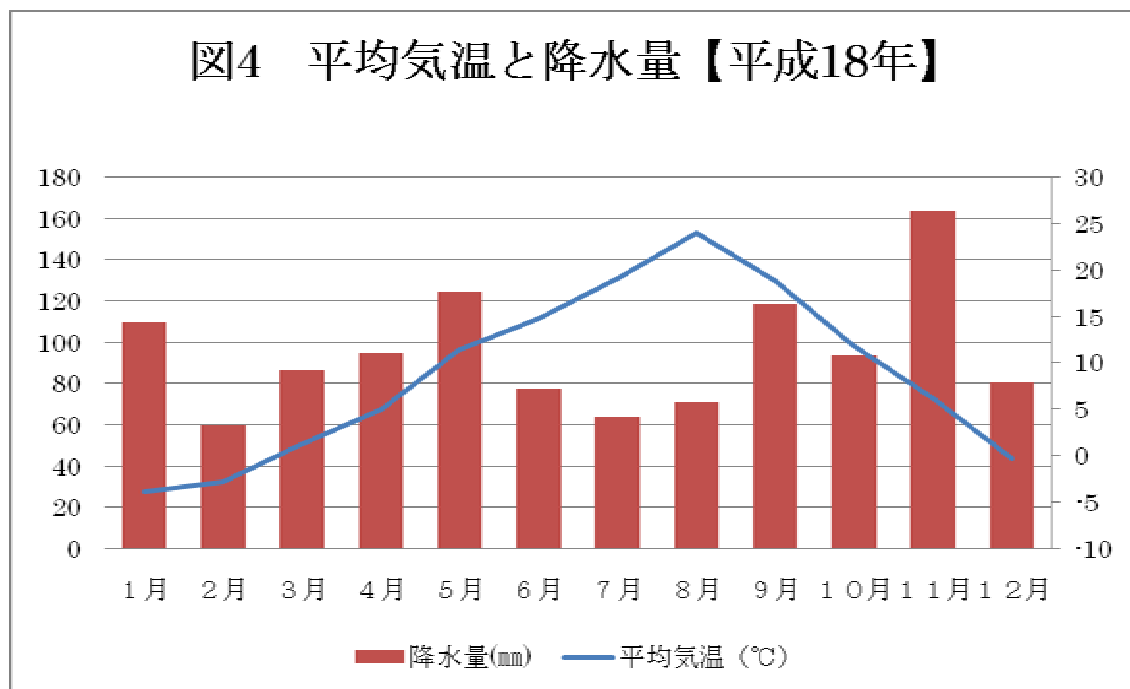


2.1 地理

今金町は東経 140°01'、北緯 42°25'に位置しており、面積は 568.14km²である。北部には狩場山系・ユーラップ岳などの山岳地帯があり、町の全域が一級河川後志利別川の流域にある。地図からわかるとおり海に面していない内陸の町である。

2.2 気候

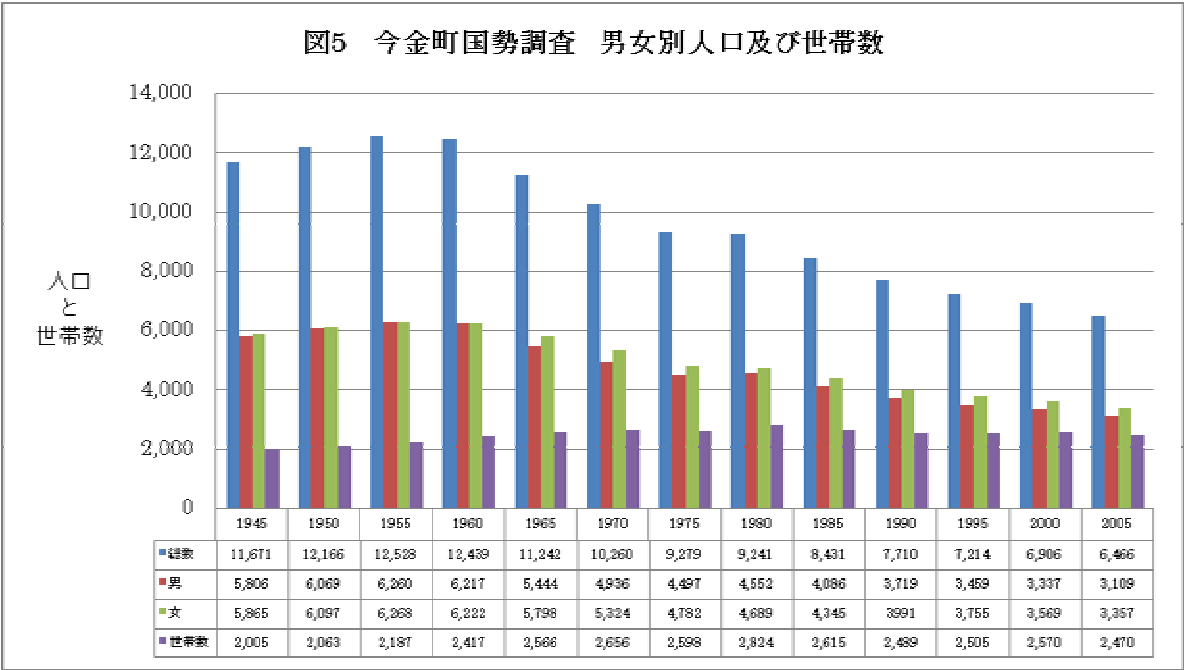
8月の平均気温は24度、1月は-3.9度であり、夏と冬の気温差は実に30度近くにもなる。昼間の温度が高く、夜間の温度が低いという内陸性の気象条件であり、この気象条件はジャガイモの生育に生かされている。



出典：今金町 HP

3.人口・世帯数

現在の今金町の人口は6401人で、男性は3067人、女性は3334人、世帯数は2666戸である（2007年5月末現在）。今金町の人口は1955年をピークに徐々に下がってきている。図5を見てわかるように全体の人口が減っているのに対し、世帯数は1954年に比べ400世帯ほど増加している。これは一世帯を構成する人数が減っていることを示している。また、人口の構成比は0～14歳が12.1%、65歳以上が30.1%となっており、明らかに少子高齢化していることがわかる。今後は少子化に歯止めをかけ、高齢者のための福祉についてもっと考える必要があるだろう。

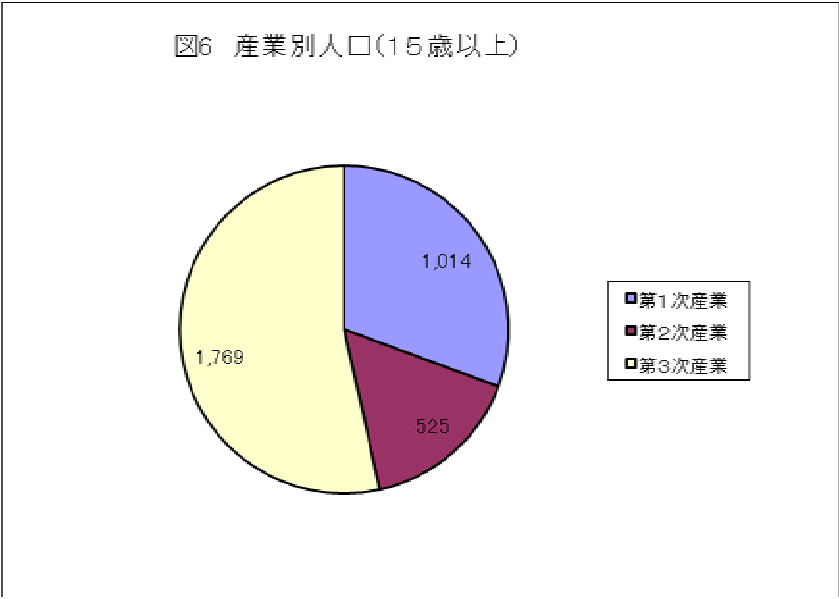


出典：北海道庁 HP

4.産業

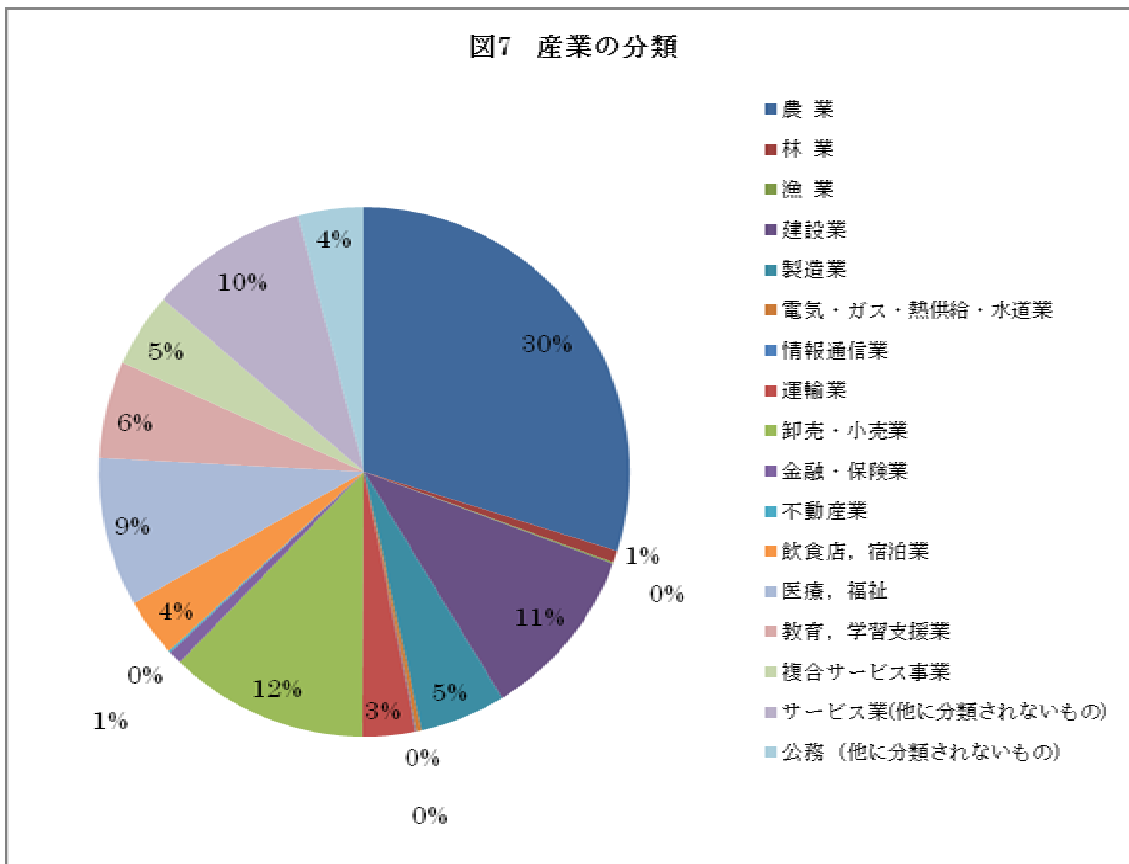
4.1 産業別人口

下の図 6 は今金町の産業別人口をあらわしたものである。第 3 次産業が最も多く、次いで第 1 次産業が多い。農業中心の今金をよく表している。さらに細分化したものが図 7 である。



出典：北海道庁 HP

図7 産業の分類

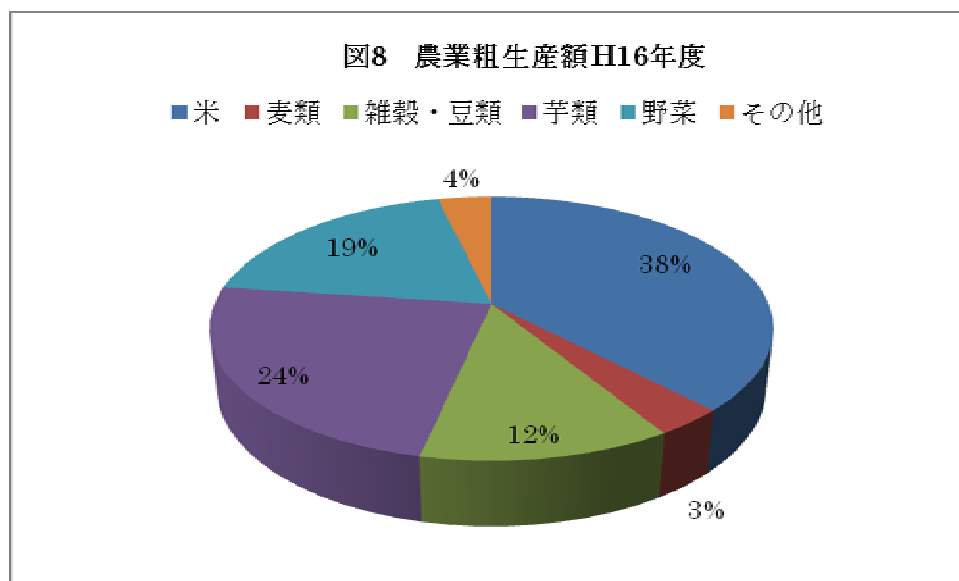


出典：北海道庁 HP

単体で最も多いのは農業の 30%、次いで卸売・小売業の 12%が続く。飲食店など各種サービス業の合計は農業を上回っている。これは多くの農家が兼業しているためと考えられる。実際、農家の構造の割合は兼業農家が農家全体の割合の六割を占めている。なお、漁業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、不動産業の値が 0%となっているが、これは就業者数がほかの職業に比べ極端に少ないためである。また昭和 35 年には 101 人いた鉱業従事者は平成 12 年にはすでに 0 人となっており、現在鉱業は行われていない。

5. 農業

今金は道南の穀倉地帯と呼ばれていることもあり稲作が中心である。生産性の向上とコストダウンに努め、良質米の生産に積極的に取り組んでいる。また、芋類も特産品の男爵いもの生産がさかんである。これは 2.2 で述べたように、昼間と夜間の寒暖の差が大きい内陸性の気象条件がジャガイモの生育に適しているためである。また、林業、酪農なども行われており、林業に関しては、林業労働者の夏季間の雨天及び冬季間の休業状態を解消するため、田代地区に木炭生産施設を導入し、木炭、土壌改良剤、融雪剤、木酢液などを生産、販売している。そのほか、個人農家でも植林を行い、木材は厳冬を乗り切るための薪ストーブや自宅の家財を作るのに利用されている。



出典：今金町 HP

表 1 農業粗生産額（平成 16 年）

米	1,340	芋類	840
麦類	120	野菜	680
雑穀・豆類	430	その他	130
		小計	3,540

単位：百万円

出典：今金町 HP

6.観光・特産品

6.1 特産品

今金町には特産品として「今金男爵」というジャガイモがある。でんぷん質を多く含んでおり、その品質・味の良さは全国的にも有名。昼間の温度が高く、夜間の温度が低いという内陸性の気象条件から今金はジャガイモの生育に適しており、昭和 49 年に野菜産地の指定を受けて以来「今金男爵」の銘柄で作付け、出荷されている。また、平成 13 年 9 月 20 日放送の S T V 系列「どっちの料理ショー」の本日の特選素材に選ばれたこともある。

図 9 今金男爵



出典：今金町 HP

6.2 観光地

図 10 いまかね秋祭り



出典：今金町 HP

自然豊かな今金では「いまかね秋祭り」、「ピリカ夏祭り」をはじめとした多くの年間行事が存在するほか、山や川にも多くの遊び場がある。道内最大のピリカダムを中心としてテニスコート・ゴーカート乗り場をはじめボート乗り場、スキー場、温泉施設といった様々な施設が点在している。山ではキノコや蕨、ヤマブドウなどが採取でき、川では、やまめや鮎が獲れる。そのほかに、後志利別川をはじめとした多くの支流では今でも砂金採取をすることができ、その中のひとつである^{ちんこ べがわ}珍古辺川では子供から大人まで気軽に採取を楽しむことができる。

また国指定の文化財として「ピリカ遺跡」がある。ピリカダムの建設にあたっていた北海道開発局函館開発建設部が、ピリカベツ川左岸の丘陵一帯で土質調査を行った際、試し掘りの穴のひとつから旧石器時代の石器が発見され、周辺が遺跡であることが判明したこ

とが始まりである。現在は案内施設である。ピリカ旧石器文化館において発掘された旧石器の展示が行われている。

図 11 ピリカ旧石器文化館



出典：ピリカ史跡 HP

今金には四つの温泉があり、それぞれあったからんど、種川温泉休憩所、奥美利河温泉山の宿、クアプラザピリカという施設がある。その中でもクアプラザピリカは近くにスキー場、キャンプ場などがあり、主要な施設といえる。

参照

今金町 HP <http://www.town.imakane.lg.jp/>

北海道庁 HP <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/index.html>

ピリカ史跡 HP <http://www.town.imakane.lg.jp/pirikan/top.html>

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%8A%E9%87%91%E7%94%BA>